

東京都小学校国語教育研究会研究主題

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

話すこと・聞くこと部 研究主題

「求めて聞き、関わって伝える力」を育てるために

第6学年国語科学習指導案

単元名 効果的に資料を使って、心に残るスピーチをしよう
～届けよう、未来を見つめるメッセージ～

学習材名 「今、私は、ぼくは」(光村図書6年)

日 時：令和6年2月9日(金) 5校時

児 童：小平市立小平第八小学校 第6学年3組 32名

指導者：小平市立小平第八小学校 主幹教諭 森永 佳代

1 単元の目標

○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。

[知識及び技能]

◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等] A(1)ウ

○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] A(1)イ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解している。	①「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 ②「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。	①粘り強く表現の工夫をし、今までの学習や自己評価、友達からの助言を生かして、自分のスピーチをよりよいものにしてしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

活発で、友達との交流を楽しみながら学ぶ児童が多い。友達の意見のよいところを見つけて、自分の考えに取り入れる姿が各教科の学習で見られる。しかし、自分や友達が考えたものに早い段階で満足してしまう児童が多く、よりよいものを求めて試行錯誤する姿を伸ばしていく必要がある。

話すことの力については個人差が大きいですが、どの児童も大勢の前で、自分の考えを話すことはできている。本校では、6年生が「全校スピーチ」を行っており、全校児童に向けて放送で自分の考えを話す機会があり、事前に考えを原稿にまとめ、話している。短い時間であることや、低学年の頃から聞いていることが影響し、比較的決まった型で話す児童が多い。また、学級でも継続的にスピーチに取り組んでいる。学級でのスピーチは原稿を作成する児童は少なく、楽しみながら取り組む児童も多いが、話の内容が分かりづらかったり、冗長になってしまったりする児童もいる。また、学級でのスピーチでは、自主的に端末を使ってスライドを作成し、資料にする児童が多い。

次の資料は、学級の児童31名に実施したアンケートの結果である。

<話す>	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
はっきり話す。	4 (12.9%)	25 (80.6%)	2 (6.5%)	0 (0%)
声の大きさや話す速さを工夫する。	5 (16.1%)	19 (61.3%)	7 (22.6%)	0 (0%)
言葉の抑揚（声の調子）や強弱、間の取り方を工夫する。	6 (19.4%)	13 (41.9%)	11 (35.5%)	1 (3.2%)
聞き手を見て、様子確かめる。	8 (25.8%)	12 (38.7%)	9 (29%)	2 (6.5%)

<内容・資料>

話の順序を考える。（「はじめ」「中」「終わり」など）	14 (45.2%)	10 (32.3%)	7 (22.6%)	0 (0%)
伝えたいことに合う理由を入れる。	14 (45.2%)	16 (51.6%)	1 (3.2%)	0 (0%)
具体的な事例を入れる。（自分の体験や調べた事実）	11 (35.5%)	13 (41.9%)	7 (22.6%)	0 (0%)
伝えたいことに合う資料を用意する。	5 (16.1%)	20 (64.5%)	5 (16.1%)	1 (3.2%)
スピーチをよりよくするために、資料を選んだり工夫したりする。	10 (32.3%)	14 (45.2%)	5 (16.1%)	2 (6.5%)

<聞く>

話し手が何を伝えたいのか考えながら聞く。	15 (48.4%)	12 (38.7%)	4 (12.9%)	0 (0%)
自分の意見と比べながら聞く。	9 (29%)	13 (41.9%)	8 (25.8%)	1 (3.2%)

どの項目も「だいたいできている」と回答している割合が高いことから、更に改善する余地があることに児童は気付いていると考える。本単元は、小学校最後の「話すこと」の単元である。「自分の思いが伝わるように表現を工夫する」という意識を常にもちながら学習し、話すこと・聞くことに満足感をもてるようにしたい。

(2) 学習材について（学習材観）

小学校卒業を間近に控え、児童は中学校という新しい世界への期待や不安、小学校で過ごした日々への名残惜しい思いなど、複雑な思いを抱いている時期である。このような時期に、これまでの自分の経験を振り返り将来について考えることは、児童にとって価値のあることである。また、これまで長い期間一緒に過ごしてきた友達ではあるが、日頃の生活の中でそれぞれの思いを伝え合う機会は多くない。本単元で、一人一人が今の思いを伝えることで、友達の新たな面に気付いたり、互いの成長を感じ合ったりできると考える。

児童はそれぞれ、経験や思いが異なっている。一人一人が自分らしいスピーチを行うために、児童同士、また、児童と教師が対話を重ねながら、これまでの経験を掘り起こし、これからの自分を見つめられるようにしたい。

(3) 単元について（単元観）

本単元では、話し方を工夫し、効果的に資料を示してスピーチを行うことが活動の重点となる。児童が見通しをもって学習に取り組めるように、単元の冒頭でモデルスピーチを提示し、ゴールまでの計画を共有する。また、スピーチを充実させるためには、「話す内容」「資料」「話し方」と3つの観点からスピーチを見直す必要がある。それぞれのポイントを児童と考える中で、既習事項と本単元で身に付けたい事柄を整理する。また、その時間での重点を明確にすることで、視点を絞って学習に取り組めるようにする。

スピーチは、聞いてくれる相手がいるからこそ成り立つ活動であり、話し手は常に聞き手を意識する必要がある。聞き手の知識や興味・関心に合わせて話す内容や資料を考えたり、話し方を工夫したりすることが本単元では求められる。準備の段階から友達との対話を大切にしていきたい。また、今回は、同じテーマでスピーチを行うので、友達の活動が大いに参考になると考える。友達に相談したことでスピーチがより良くなったという実感がもたせられるように活動を工夫していく。

4 話すこと・聞くこと部でとらえる「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

話すこと・聞くこと部では、「話すこと・聞くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を次のように捉えた・

言葉による見方とは、数ある言葉の中で、相手（対象）や目的、話題、聞き手に与える印象や聞き手の様子、話し手の意図や思いに即して使われた話し言葉の意味や働き、使い方に着目することと考えた。

言葉による考え方とは、聞き手の立場や思い、話し手の立場や思いに即して話し言葉のはたらきを捉えなおしたり、説得や推薦などの目的に応じてどのような言葉を使うとよいかを比較・吟味し、言葉の意味や働きを問い直したりすることと考えた。

これらの考えを踏まえて、どのような言葉を選び、どのような言い方で伝えれば相手に伝わるかを自覚化していくことが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が（本単元において）身に付けたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

○「話すこと・聞くこと」についての既習事項の確認表

小学校の「話すこと・聞くこと」の単元でどのような力を身に付けてきたか一覧表にして提示する。

児童がこれまでの学びを確認することで、本単元で身に付けるべきことを意識できるようにする。

○相手意識・目的意識の明確化

スピーチの相手は、学級の友達に設定した。児童はこれまで学習や生活、行事を共にし、仲を深めてきた。そんな友達と一緒に過ごせるのもあと僅かである。この時期に、互いの内面に迫る話題でスピーチを行うことで、自己を改めて見つめ、友達の新たな面に気付くことを目的に、単元を展開する。また、単元の導入で、どのような話をしたいか、聞きたいかを話し合う。学級の友達の興味・関心を知ること、より「伝えたい」「聞きたい」という気持ちを高めたい。

○単元での学習計画表

単元の導入で、スピーチ会に向けてどのような活動が必要か児童と共に考え、学習計画を立てる。それぞれの活動に必要感をもって取り組めるようにする。また、単元計画表は、ふり返しカードも兼ねる形にした。学習を進める中で、必要な部分で自己の活動をふり返って記録したり自分のめあてを記入したりできるようにした。

(2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

○めあてや活動の焦点化

スピーチをよいものにするには、「内容」「資料」「話し方」など、様々な視点からスピーチを検討する必要がある。また、小学校最後の「話すこと・聞くこと」の単元として位置付けているため、求めるものも多くなりがちである。そのため、その時間に意識すべきめあてや活動を焦点化することが必要になる。めあてや活動を絞ることで、児童は自分のスピーチをより深く見直したり、友達にアドバイスをできたりすると考える。

○グループでの交流を生かしたスピーチ作り

本単元のスピーチは、個人の発表になるが、スピーチ作成の段階からグループでの活動を取り入れるようにする。発表前の練習の段階になるとスピーチの内容が固まっているため、「声を大きく」「目線を上げて」など、話し方や態度についてのアドバイスが多くなってしまふ。本単元では、内容を検討する段階から、意図的にグループで活動することによって、より友達のアドバイスを生かしたスピーチを作ることができるのではないかと考えた。

○スピーチメモの工夫

付箋やカードを使ってスピーチメモを作成することで、容易に順序を入れ替えたり内容や資料を取捨選択したりできるようにした。また、友達同士でアドバイスし合うときにも、スピーチが可視化されていることで、活動がしやすくなると考えた。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元は、卒業を前にし、未来について考えたその思いを学級の友達に伝える単元である。聞き手が多数いる中で、自分の思いをよりしっかりと伝えるために、資料を使ったり、話の内容や構成を工夫したりする。SNSが発達し、直接相手と言葉を交わさずともコミュニケーションが取れる社会になりつつあるが、人と人が関わり、自分の思いを言葉で伝え、相手の思いを受け止めることは、私たちがよりよく生きていく上で必要不可欠なことである。本単元では、特に「聞き手を意識して話すこと」「資料を使って話すこと」「具体的事例などを入れ、話に説得力をもたせること」などを身に付ける。小学校での生活は残りわずかだが、新たに始まる中学校生活において、各教科の学習や行事、そして新たな人間関係を構築する上で、本単元で身に付けた力が大いに生かされると考える。また、自分のスピーチをよりよくするために他者と協働しながら粘り強く取り組むこと、これまでの学習をふり返し自分のめあてをもつこと、など、学習に向き合う力も同様である。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
話題の設定	1	①未来を見据えた自分の思いをスピーチで伝えるという学習の見通しをもつ。 ②「話すこと・聞くこと」系統表から6年間の学びを振り返り、本単元でつけたい力を自覚する。 ③モデルのスピーチを聞き、ゴールイメージをもつ。 ④スピーチの話題を考える。	○小学校最後のスピーチ单元であることを伝え、目的や相手、付けたい力を明確にする。 ○モデルのスピーチを聞くことで、見通しをもって学習できるようにする。 ○单元に合った話題について、少人数で話し合った後、全体で共有する。 ○どんな内容を聞きたいか、伝えたいか考える。	◆学習の見通しをもち、自分のつけたい力を自覚し、スピーチへの意欲を高めている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言・ふり返りシート
情報の収集 ⇕ 内容の検討 ⇕	2	①スピーチの内容を考えたときのポイントを話し合う。 ②自分の伝えたいことをはっきりさせ、スピーチの内容になりそうなことを書き出す。 ③書き出したことを整理し、スピーチメモを作成する。	○モデルを参考に、スピーチの構成や内容のポイントについて確認する。 内容のポイント（例） <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を入れる。 （自分の体験、調べた事実など） ・聞き手が興味をもつような構成にする。 ・事実と意見を区別する。 ○順序を入れ替えたり、加除訂正したりできるようにする。（カード、付箋等）	◆スピーチの構成について理解している。〔知識・技能①〕 ★スピーチメモ ◆目的に応じてスピーチ内容を検討し、自分の考えと事実とを区別して話の構成を考えている。〔思考・判断・表現②〕 ★スピーチメモ

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">構成の検討</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">考えの形成</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表現</p>	3	<p>①効果的な資料とはどのようなものか話し合い、理解を共有する。</p> <p>②資料を準備する。</p>	<p>○モデルスピーチや教科書を参考にしながら、児童の言葉でまとめていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>効果的な資料（例）</p> <p><目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を引き付ける ・内容をより分かりやすく伝える <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に合わせた内容 ・情報を絞る ・図表を使う </div>	<p>◆自分の考えが伝わるように、効果的な資料を収集したり作成したりしている。[思考・判断・表現①]</p> <p>★作成した資料</p>
	4	<p>①スピーチを完成させるために必要なことを確認する。</p> <p>②グループ内でスピーチし、助言し合う。</p> <p>③友達と対話しながら、よりよいスピーチになるように、内容や資料を検討する。</p>	<p>○「内容」「資料」「話し方」の3点を押さえ、本時は主に内容と資料について検討することを確認する。</p> <p>○できたところまでをスピーチする時間を設けることで、自分に足りないところを自覚し、次の活動につなげられるようにする。</p>	<p>◆自分の考えが伝わるように、内容や資料、話し方について、表現を工夫しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>★観察、振り返りシート</p> <p>★スピーチメモ</p>
	5	<p>①スピーチの練習をする際に気を付けることを確認する。</p> <p>②グループ内でスピーチをし、助言をし合う。</p> <p>③助言を参考に、スピーチがよりよくなるように内容を見直したり練習したりする。</p>	<p>○本時は、「話し方」をメインにアドバイスし合うことを確認する。</p> <p>○アドバイスするときの観点を確認する。</p> <p>○グループでのスピーチの前に、個人で練習する時間を設ける。</p> <p>○グループ内でスピーチする際は、端末に録画し、自分のスピーチを振り返ることができるようにする。</p>	

共有	6 ・ 7	<p>①話し手と聞き手、それぞれの立場で気を付けることを確認する。</p> <p>②学級でスピーチ会を行う。</p> <p>③単元を振り返り、これからの学習への意欲を高める。</p>	<p>○一人一人が単元の内容に沿ったためあてをもって、話したり聞いたりできるようにする。</p> <p>○互いのよいところを伝え合うようにする。</p>	<p>◆資料を使って、自分の考えが伝わるように工夫してスピーチしている。[思考・判断・表現①]</p> <p>★スピーチ</p> <p>◆自己の学びを振り返り、これからの学習や生活に生かそうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>★発言、振り返りシート</p>
----	-------------	---	--	---

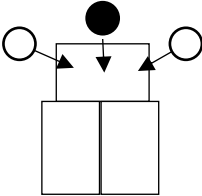
7 本時の学習

(1) 本時のねらい

自分の思いがより伝わるスピーチになるように、友達のアドバイスをもとに内容や資料を工夫することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1. 本時のめあてを確認する。	○「内容」「資料」「話し方」のポイントがあることを確認し、本時では、「内容」「資料」を中心にすることを伝える。	
自分の思いがより伝わるスピーチになるように内容や資料を工夫しよう。		
2. 本時の学習の流れを確認する。	○友達へのアドバイスの仕方を確認する。	
<p><話し手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がいちばん伝えたい思いを伝える。 ・悩んでいるところなどアドバイスが欲しい点を伝える。 <p><聞き手></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチを聞き、気づいたことを相手に言葉で伝える。 <p>※分かりにくいところはないか、もっと詳しく聞きたいところはどこか、資料と内容が合っているか、などを考えながら聞く。</p> <p>※第2時、第3時で話し合った「内容」「資料」のポイントを参考にする。</p> <p>※改善点は短い言葉で付箋やワークシートに書き、後から見直せるようにする。</p>		

<p>3. グループの中で、できたところまでをスピーチし、よいところや改善点を伝え合う。</p>	<p>○1人7～8分と時間を区切って行う。</p> <p>○誰のスピーチについて話し合っているかが分かるようにし、教師が助言しやすいようにする。</p> <p>*座席の配置*</p>  <p>○教師は、児童が「内容」「資料」のポイントを意識しているか確認しながらグループを回り、助言する。</p> <p>○途中で、再びスピーチを聞き合ってもよいことを伝える。</p> <p>○内容と資料が完成した児童は、話し方についても工夫するように伝える。</p>	<p>◆自分の考えが伝わるように、内容や資料、話し方について、表現を工夫しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>★観察</p> <p>★スピーチメモ</p> <p>★ふり返り</p>
<p>4. 友達からのアドバイスをもとに、よりよいスピーチになるように、内容や資料を検討する。</p>	<p>○教師は、児童が「内容」「資料」のポイントを意識しているか確認しながらグループを回り、助言する。</p> <p>○途中で、再びスピーチを聞き合ってもよいことを伝える。</p> <p>○内容と資料が完成した児童は、話し方についても工夫するように伝える。</p>	<p>○<u>おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のスピーチを聞いて、自分に取り入れられそうな工夫を探し、よりよいスピーチを目指すよう伝える。 ・話し方の工夫について、自分のめあてをもつように伝える。 <p>○<u>おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチのよいところと課題を確認し、改善する方法を一緒に考える。
<p>5. 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○自分でもう一度スピーチをし、変化を感じられるようにする。</p> <p>○本時で工夫したところを中心に、振り返るようにする。</p>	

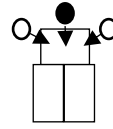
(3) 板書計画

効果的に資料を使って、心に残るスピーチをしよう
届けよう、未来を見つめるメッセージ

めあて 自分の思いがより伝わるスピーチになるように、
内容や資料を工夫しよう。

〈学習の流れ〉

- ① 一人ずつスピーチをし、アドバイスし合う。
・ 一人七〜八分



話し手

いちばん伝えたいこと
アドバイスがほしいところ

↓スピーチ

内容のポイント

資料のポイント

- ② アドバイスをもとに、内容や資料を工夫する。

- ③ ふり返り